

1. 科目名（単位数）	特別ニーズ教育論（初等・小）（2 単位）	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	是枝 喜代治		
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば補講期間に関連施設の見学なども予定する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1) インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2) わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3) 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。		
8. 学習目標	1. 特別の支援を必要とする児童の障害の特性及び心身の発達について理解し、説明することができる。 2. 特別の支援を必要とする児童に対する教育課程や支援の方法について理解し、説明することができる。 3. 障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある児童の学習上の困難とその支援について理解を深める。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	レポート課題：「日本におけるインクルーシブ教育の現状と課題についてまとめなさい」 上記レポートの課題作成を通して、特別ニーズ教育に関する理解を深め、論理的思考力や概念化能力、自己の見解を口頭や文字で表現する力を培う機会とする。 ※レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。 ※各章・節の適当な時期に授業の内容に関する確認テストを行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二(2017)『キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の障害児教育』クリエイツかもがわ 【参考資料】 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示 文部科学省） 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童の発達や学習の過程について理解できたか。 ・インクルーシブ教育と特別支援教育に関する基本的な用語や概念を理解することができたか。 ・インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化について模索できたか。 ・わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開について理解できたか。 ・発達障害の児童や障害を抱える児童の心身の発達や学習の過程を展望することができたか。 ・特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題について自らの考え方をもちとすることができたか。 ・通常学級における授業のユニバーサル化について理解できたか。 ○評定の方法 ・平常点（積極的参加度・授業態度・発表・発言等） 30% ・課題（中間レポート・ワークシート等） 30% ・期末評価（レポート・試験等） 40%		
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。 1. 授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的態度で授業に参加することが期待されている。 2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4. レポートの提出日を厳守すること。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 障害児教育の発達(その淵源～) 障害児教育の発達段階とその背景を探る。	事前学習	教科書「第 5 章」(p. 250-251) を熟読しておく。
		事後学習	特別ニーズ教育論を学ぶ意義について考える。本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 2 回	障害児教育の発達(パイオニアたちの時代①) 各種障害の教育的発達に寄与した外国のパイオニアの功績を理解する。	事前学習	教科書「第 5 章」(pp. 252-259) を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 3 回	障害児教育の発達(パイオニアたちの時代②) 各種障害の教育的発達に寄与した日本のパイオニアの功績を理解する。	事前学習	教科書「第 5 章」(pp. 260-265) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 4 回	公教育化する障害児教育の光と影 欧米諸国及び日本の近代教育制度における障害児教育の発達を省察する。	事前学習	教科書「第 5 章」(pp. 266-269) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。

第 5 回	分離主義障害児教育制度の進展 欧米及び日本の第二次大戦後の障害児教育制度の進展を把握する。	事前学習	教科書「第 5 章」(pp. 270-283) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 6 回	障害児教育とインクルーシブ教育システムの異同 サラマンカ声明にみる特別な教育的ニーズと障害者権利条約におけるインクルーシブ教育の異同を把握しそれについて討論する。	事前学習	教科書「第 1 章」(pp. 12-25) を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 7 回	特別支援教育とインクルーシブ教育(特別支援教育の理念と制度、通常教育の合理的配慮) わが国の特別支援教育とインクルーシブ教育の関係性について議論し、理解する。	事前学習	教科書「第 1 章」(pp. 22-35, pp. 44-45) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 8 回	特別支援教育における教育課程の法的基礎(学習指導要領の改訂(個別的教育支援計画、個別の指導計画) 特別支援学校の教育課程、通常学校の特別支援学級及び通級による指導等の特別の教育課程について整理する。	事前学習	教科書「第 2 章」(pp. 72-81, 86-89) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 9 回	自立活動とは—その歴史の変遷— 特別支援教育の独自の領域「自立活動」の変遷から目的・指導の実際を把握する。	事前学習	教科書「第 2 章」(pp. 98-103) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 1 0 回	特別支援学校の教育課程編成の特徴 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱と重度・重複障害の教育課程の多様な類型を理解する。	事前学習	教科書「第 2 章」(pp. 78-85) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 1 1 回	特別支援教育の授業づくり(個別的教育支援計画、個別の指導計画、教材・教具、授業研究) 通常教育と基本的に異なる授業づくりのアプローチ、ユニバーサルデザイン授業化について理解を深める。	事前学習	教科書「第 2 章」(pp. 112-121) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 1 2 回	障害の診断・支援(知能・発達等心理検査、ダウン症等の医学的診断、手話・ろう文化の社会的支援) 教育を取り巻く隣接科学(分野)との関連性を理解する。	事前学習	教科書「第 3 章」(pp. 172-185, pp. 202-203) を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 1 3 回	障害の診断・判断・支援(学習障害、ADHD、自閉症スペクトラム障害) 特別支援教育で新たな障害として位置づけられた発達障害の特性や支援について理解する。	事前学習	教科書「第 1 章」(pp. 62-63)・「第 3 章」(pp. 186-191) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 1 4 回	特別な教育的ニーズ(いじめや非行、不登校、外国人児童生徒、家庭貧困等)への教育的支援 障害児教育とは異なる特別ニーズのある対象をインクルーシブ教育の観点から考える。	事前学習	教科書「第 1 章」(pp. 64-65, 162-167) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習する。
第 1 5 回	ライフステージからみた教育を取り巻く関係機関との連携・支援(幼保小、児童発達支援、学童保育、検診・相談事業、生涯学習、雇用・労働、福祉) 各自の実際の体験を踏まえてグループ討論を行う。	事前学習	教科書「第 4 章」(pp. 207-245) と配付資料を熟読しておく。
		事後学習	本時の授業のポイントや用語について復習し、グループ討議の結果をまとめる。
期末試験			